

# ノースサイド

## 号外版

2002年11月20日

潮陵ラグビー部 OB 会会報

会長：藤中博文 ☎0134-62-2351

事務局：☎047-0034 小樽市緑2-11-7

久保寿史方

事務局長：大川剛司 ☎090-8905-0540

会報編集部：間 博信 ☎01237-2-3536

### 第55回北海道高等学校

### ラグビーフットボール

### 南北選手権大会

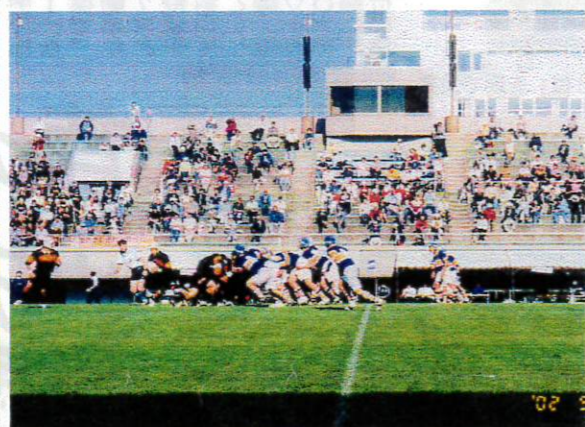


## 潮陵 大健闘!!

## 山の手にも猛攻

## ほぼ互角の勝負

いざ「打倒! 山の手」へ出陣



キックオフ「それっ突っ込めー!」  
押せーっ」

ラインからのルーズ  
「球出せ、こっちだ!」

### 花園に立つのも夢じゃない

**戦評** 山の手に8対19で敗退。潮陵が弱かったのか。否、強くなった。確実に強くなっている。この試合を見る限り、ほぼ互角の戦い。両軍にそれほど大きな力の差があったとは感じられない。潮陵の猛攻を長時間にわたり耐え抜く山の手底力、集中力。2連覇の実績がつくる、何か得体の知れない魔物のような差があるとしか思えない。久しぶりに大声をあげ、体と体がぶつかり合う熱気を感じ、いい試合を見せてもらった。成田監督、辻、丸田両コーチを囲む円陣に、選手もマネージャーも涙にくれていた。父兄もOB連も…。美しい光景だった。整列した戦士たちに当たる夕日がひと際まぶしい。明日に向かって立つ。近い日に、花園のグラウンドに立つのも夢ではないと思えるようになった。(間記)



「キープ、キープ。耐えろーっ!」

# 大接戦は無く「南」で3位 惜しくも準決勝で敗退

第55回北海道高等学校ラグビーフットボール南北選手権大会は平成14年9月24日から札幌月寒体育館屋外競技場で行われた。我が母校・小樽潮陵高校チームも「打倒! 札幌山の手(監督は潮陵OBの75期・佐藤幹夫君)」を胸に、悲願の花園出場を目指し25、26の両日、大会に挑んだ。25日は尚志学園に76対0という大差で勝利を収め、26日の準決勝へとコマを進めた。宿敵・山の手との試合は実質的な南地区決勝戦と言われるだけあり、予想以上の白熱戦を繰り広げた。母校チームは山の手と大接戦を演じ、一時は「大逆転か」というところまで相手チームを追い込みながら、猛攻むなく決定的ゴールをあげられず8対19で敗退、南大会で3位となった。

## スクールカラーのオレンジのポンポンを振り父兄が応援

**9月25日 対尚志学園戦 快晴** 試合開始30分前、すでに40~50人の父兄、ヤングOBたち、そしてロートルOB連も10数人が仕事の合間をぬって(サボって?)、はたまた暇を持て余してか馳せ参じ、即席の大応援団を形成していた。前の試合に札幌山の手が102点差で大勝していたため、「我が校も100点以上の差で勝利しなければ」と応援席は勝手に思い込み、異様な盛り上がりを見せる。応援練習にもつい熱が入り、手に手に持ったスクールカラーのオレンジのポンポンが、父兄リーダーの気合のもと、力強く(!!)威勢良く(!!!!)何度も何度も振られていた。

14:20 尚志学園のキックオフで試合開始。過去の試合実績で力の差を知っているせいか、我が潮陵チームは落ち着いて、気合も充分。体も動き、フォワードの突っ込み、バックスのパスも良く、ボールが小気味よく通る。開始間もなく、トライ先取。ますます勢いづき、フォワードのフォロー、突っ込



オレンジ色のポンポンが威勢よく風に舞う応援団席一藤中会長▲も熱心に応援、モールからの球出し、バックスのパスが面白いように通り、連続的な攻撃が続く。前半31点、後半45点。終わってみると76対0の大差で圧勝。だが山の手勝利点に及ばなかったせいか、父兄の顔は浮かぬ気だ。 (本当に潮陵も強くなったモンデスネ)



60人近い応援団がスタンドを埋めて…

**26日 対山の手決戦 晴れ** 前の試合が遅れに遅れ予定の30分後、

14:25 母校のキックオフで試合開始。逆風の中、山の手反則からペナルティーゴールで先取。山の手フォワードの体重差に、スクラム戦でやや苦戦するも、踏ん張る。何度も何度も相手側の攻撃に果敢なタックルで食い止め、反則を呼び込み、耐え続けるが、14:48 ついにトライを許す。ゴール、成功。その後すぐトライを返す(ココが小生たちの時代との違い。すぐに返してしまう)が、ゴールならず。8対7で折り返すと思いきや、前半終了1分前、モールからの攻撃にトライを奪われ、8対14で前半を終了した。

後半、両陣営、押しつ押しされつ攻防の中、「打倒! 山の手」の思いが、力となって結集したかのように、敵陣営へ攻め込み、ゴール前の攻防が始まった。何度も何度も突っ込んでタックルされ、つぶされ、タックルしては突っ込み、トライと思えば反則…。スクラムも、押せども押せども相手も耐える。10分、15分。延々と続く敵前での攻防。潮陵がこんなに強くなっているとは! 父兄、OBが叫ぶ「いけー」、「突っ込め!」…絶叫である。あと1メートル、否、30センチ。その距離が届かない、縮まらない。後半終了3分前、突然糸が切れた。反則をとられ、ラインを瞬間に抜かれトライされ、すべてが終わった。8対19。(戦評は左面に) (間記)



# 小樽潮陵が4年全道

## 760トヨタ自動車コーチ招へいの効果

# 北海道

あなたの声Eメールアドレス hokkaidou@sponichi.co.jp



全国高校ラグビー一巡予選

「毎日新聞社主催」



3年前は0-57で敗れた相手に雪辱しても、視線は先に向けられていた。観客席前に戻ってきた小樽潮陵

# スポーツ紙 切り抜き集

北海道	0	14
旭川	70	33
釧路	140	0
帯広	0	40
中標津	46	12
遠軽	7	38
旭川東	38	29
苫小牧	31	26
函館大有斗	52	19
札幌南	22	8
西館北	29	76
苫小牧工	0	0
札幌山の手	102	0
北海道志学館	0	0
小樽潮陵	76	0

# マネージャーたちも涙・涙



「南大会3位」を涙で受賞

# 現場フォト ハイライト



激しいボールの奪い合い

### 北北海道大会

本別	0	14
北見北	70	33
豊良野	140	0
釧路商工	0	40
帯広工	0	12
中標津	46	38
遠軽	7	29
旭川東	38	26

### 南北海道大会

苫小牧	31	29
函館大有斗	52	26
札幌南	22	19
西館北	29	8
苫小牧工	0	76
札幌山の手	102	0
北海道志学館	0	0
小樽潮陵	76	0

【注】白×キは敗退校

98年以來4年ぶり  
道尚志学園を二蹴、98年以來4年ぶりの勝利を挙げた。就任6年目の成田正人監督(33)は「打倒札幌山の手に手心えあり。速さを武器に勝負したい」と今日26日の準決勝を見据える。

◆3連覇を目指す札幌山の手 鎌田勇志主将(3年)「みんな初戦から意識を高く、頑張った。今年は外でトライできるように展開していきたい。」

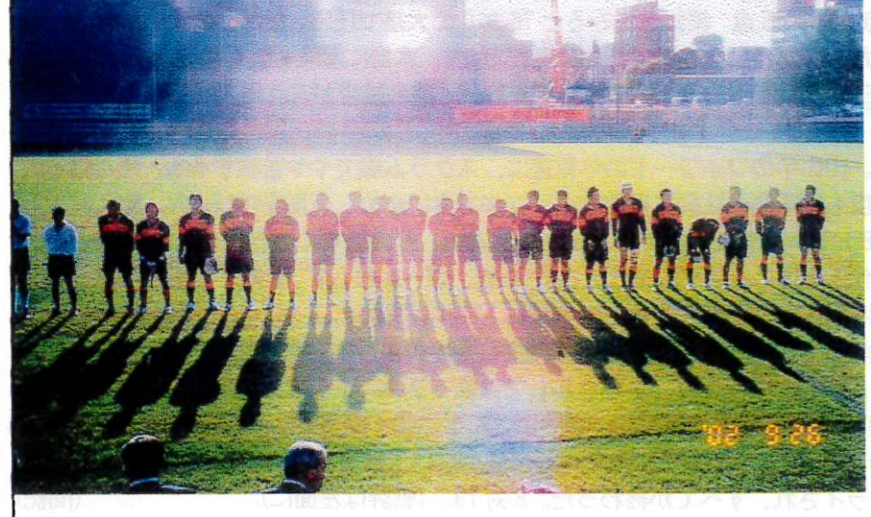


思わず力と熱が入る応援団

# 勇者は帰る...涙して



# 戦士に降り注ぐ夕日



敵陣深く攻め込む潮陵の勇者たち

### 全校応援励みに

小樽潮陵	2	1
札幌山の手	2	1
札幌南	1	0
西館北	0	5
苫小牧	19	8
函館大有斗	20	13

▲札幌山の手V前半終了まで劣勢だったが、地方の差で決勝に進んだ。佐藤幹

# 「やりづらかった」と山の手監督

夫監督(41)の母校である小樽潮陵との対戦に「正直、やりづらかった」と話し、後半は退場も出したが組織力でカバーした。同校にとって初の札幌での決勝を迎え、1109人の初の全校応援で3大会連続の花開き場をアシストする。

# 磐石の布陣の山の手を苦しめた潮陵



成田監督の話を涙で聞く円陣

だが小樽潮陵出身の佐藤幹夫監督(41)は「後半途中まで同点だった。気は抜けない」と警戒する。過去54年、花開き場がない小樽地区の歴史が変わるかもしれない。(見田 浩樹)

OB諸氏のみなさん、今後も後輩への暖かいご支援、ご協力を!!